

多発する
自然災害

これから求められる技術者の使命と役割

福井県コンクリート診断士会が主催 共催は福井県建設技術公社

地域鉄道2社の検査支援も報告

オープンセミナー 一般参加含む80人が聴講

第116回研修会

結した、鉄道施設の検査・診断等の支援に関する協定の意義に触れ、「全国25地域の士

会の中でも初めて。社会の安全性の向上に、一層寄与する、足掛かりとしたい」と強調した。

インフラの維持管理に使命感

規模災害による、コンクリート構造物の劣化や損傷を指摘する。

あわせて、人口の減少や、少子高齢化、建設業に携わる担い手不足も心配材料とする。

その上で、防災・減災の対策へ、コンクリート構造物は重要なインフラの一つ、と明確化し、

「新たに建設される構造物も含め、いかにインフラを効率的に維持管理していくのか。我々の、子や孫の世代に、余計な負担をかけないように出来るか。これらの課題を解決することが、今まさに、我々に求められている」と、問題意識や使命感を強めている。



山川会長あいさつ

福井県コンクリート診断士会（山川博樹会長）が主催する、20年度のオープンセミナーは12月25日、福井市手寄の福井県民ホールを会場に開催された。今回は、多発する自然災害、これから求められる技術者の使命と役割をテーマとした。



山本 佳也氏

で行う「流域治水」への転換、気候変動の影響を反映した治水計画等への見直し、防災・減災のためのすまい方や土地利用の推進、災害発生時における人流・物流コントロール、交通・物流の機能確保のための事前対策、安全・安心な避難のための事前の備え、インフラ老朽化対策や地域防災力の強化、新技術の活用による防災・減災の高度化・迅速化、わかりやすい情報発信の推進、行政・事業者・国民の活動や取り組みへの防災・減災視点の定着、20年7月豪雨への対応を解説。

国土交通省近畿地方整備局総括防災調整官の山本佳也氏

講演のテーマは「多発する自然災害、災害対策への取り組みとコンクリート診断士の心得」。20年9月の赤羽一嘉国土交通大臣名入りの「総力戦で挑む、防災・減災プロジェクト〜いのちと、暮らしをまもる防災減災」を基に、分かりやすく話した。自然災害に対する我が国の脆弱性から、防災・減災が主流となる社会、総力戦で挑む防災・減災プロジェクトの主要施策、あらゆる関係者により流域全体への見直し、防災・減災のためのすまい方や土地利用の推進、災害発生時における人流・物流コントロール、交通・物流の機能確保のための事前対策、安全・安心な避難のための事前の備え、インフラ老朽化対策や地域防災力の強化、新技術の活用による防災・減災の高度化・迅速化、わかりやすい情報発信の推進、行政・事業者・国民の活動や取り組みへの防災・減災視点の定着、20年7月豪雨への対応を解説。



田村 隆弘氏

品質確保の取り組みを支援してきた。そこで、改めて品質確保とは？設計段階で構造物に要求された性能を確保するために、施工段階で確実な品質を実現すること。構造物に要求される能力とは、安全性（耐震性）、耐久性、使用性、その他（美観など）。安全性確保のポイントは、設計通りの配筋とコンクリート強度。耐久性の品質確保のポイントは、温度ひび割れ対策による鉄筋腐食の抑制や、かぶりの緻密化による塩害や、水分の浸透に伴う鉄筋腐食の防止などを指摘。

独立行政法人国立高等専門学校機構福井工業高等専門学校校長の田村隆弘氏

講演テーマは「新設構造物の品質確保の重要性と、コンクリート診断士の役割」。氏が参加する日本コンクリート工学会（JCI）や、土木学会、コンクリートよろず研究会での活動を紹介。新設コンクリート構造物の温度応力（乾燥収縮、自己収縮）による初期ひび割れの抑制から、品質確保の対策まで研究と、その成果発表。また得られた知見をもとに、自治体や発注者のひび割れ対策や、